

# パンと神の言葉と

宗教部長 佐々木哲夫

巻頭言

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る二つの言葉で生きる」  
(マタイ福音書四章四節)

「人はパンだけで生きるものではない…」は、イエス・キリストが旧約聖書の申命記八章三節から引用して語った言葉です。パンは、生きるために必要な物資を総称しての表現です。確かに、人は、パンなどの栄養があれば、自分の命を長らえさせることができます。食べるものがなければ、生

きてゆくことが出来ません。恐らく、この聖句の原初の読者たちは、パンを得るために一生懸命働いていた人たちでありましょう。しかし、聖書は、人間が生きるに必要なのはパンだけではないということです。生きるためには、精神的・霊的な原動力も必要だということです。「衣食足りて礼節を知る」という優先順位の問題ではありません。生きる原動力がなければ、パンが十分にあったとしても、人は真に生きるこ

も適用し得るものです。Brotwissen-Strafというドイツ語があります。直訳するならば「パンのための学問」、すなわち生きるためにすぐに役立つ知識、「実学」とも訳し得る言葉です。換言するならば、修得すればすぐに就職に役立つ知識、給料に直結する学

びを総称しての言葉です。もちろんそのような学びは、私たちが生きるために必要です。しかし、人間はBrotwissen-Straf以外の知識も生きるために重要なものとして蓄積してきました。聖書は、それを「神の口から出る二つの言葉」と表現しています。東北学院大学は、パン以外の学び、たとえば、キリスト

の学びを創立以来二二二年間大切にしてきました。  
東北学院大学の学生として「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る二つの言葉で生きる」を豊かに体験していただきたいと願います。



TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

# 大学礼拝

## WORSHIP SERVICE

春季特別伝道礼拝特集号

CHAPEL NEWS



第105号 2008年6月

東北学院大学宗教部

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

TEL (022) 264-6428

# 「隠れたところにいる神」

日本基督教団 藤沢北教会牧師



藤森 勇紀

ている。「取引終了」ということ  
です。

でも私たちは、なぜかそこで終わ  
りにできず、満足できず、もつと認め  
てほしくなります。他人が認めてく  
れないのなら、自分で自分を誉めて  
やる。「右の手のすることを左の手に  
知らせる」というのは、そうした、独  
りぼっちの取引なのかも知れません。

それは、寂しいこと、何かが決定的に  
欠けていることではないでしょうか。人の  
目を気にし、人との関係をまさぐりなが  
ら、そこには、愛が欠けています。だから、  
善いことをしても、人からの感謝や評価が  
返ってこない、「なんだ、せっかくこうし  
てやったのに」などとぼやいたり、人を恨  
んだりすることになります。逆に、「報い」  
を得たら得たで、今度は「こちらが何か  
応えなければ」と心配してしまいます。

主イエスは、人からの報いを求めて汲々  
とする取引の生き方をやめて、『隠れたと  
ころ』に撤退してみなさい」と、私たちを  
招いておられるのではないのでしょうか。

そうしますと、「隠れたことを見ておら  
れるあなたの父が、あなたに報いてくださ  
る」という言葉は、甘美に響きます。あ  
なたがたの破れや汚れ、それこそ人の目か

## 悪

「神の目」を意識するものです。ところが、  
なぜか善いことをするときには、「人の目」  
ばかりが気になります。

主イエスは、「あなたの善行を人から隠  
せ」と言われます。それでここに、あの有  
名な言葉も出てきます。「右の手のするこ  
とを左の手に知らせてはならない」。誰で  
も「自分を認めてほしい」「本当の私を評価  
してほしい」、そういう願いを持っています。  
けれども、人に認められ、評価される。  
それで、どうなのではないでしょうか。

主はこう言われます。「はつきりあなた  
がたに言っておく。彼らは既に報いを受け  
ている。」「報い」とは報酬。行いに対する  
評価。それを、人から受ける。「既に報い  
を受けている」とは、「それでもう、終わっ

ら隠したくなるような、「隠れたところ」に、

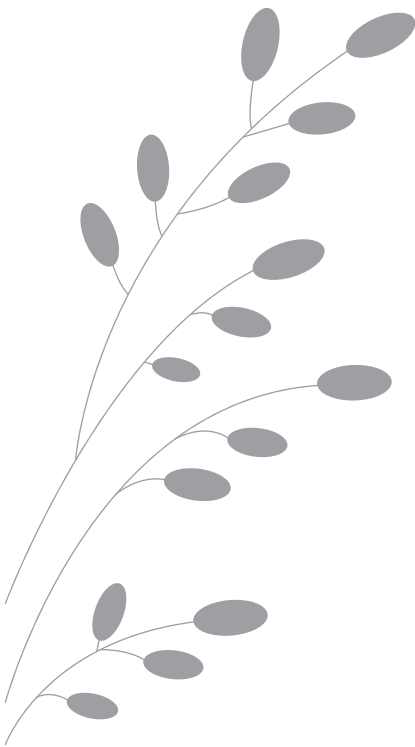
実は「あなたの父」がおられるのだ、あな  
たが隠れるしかないところに、「あなたの  
父」がおられるのだと。

でも、ふと思えます。「どうして神は隠  
れたところにおられるのか」。それは、「神  
は愛だから」としか言いようがないように  
思われます。神の愛は、「見てもらおう」  
とする愛ではないので、「隠されて」います。  
「人からほめられよう」とする愛ではない  
ので、「気づかれぬ」。神の愛は、「えっ、  
こんな仕方で？ こんなところに？」と、  
ふと気づかれるような愛です。垣間見て気  
づくような「隠された愛」なのです。  
だから、人から軽んじられ、あざけられ、  
捨てられます。キリストの十字架には、そ  
んな「隠れた神」の「隠れた愛」が現れ  
ています。

### ◆藤森 勇紀 牧師

一九六二（昭和三七）年埼玉県  
に生まれる。一九八七（昭和六二）  
年東洋大学法学部卒業後、民間企  
業勤務。一九九一（平成三）年東  
京神学大学神学部神学科卒業。一  
九九三（平成五）年東京神学大学  
大学院博士前期課程修了後、日本  
基督教団茨木教会を経て二〇〇〇  
（平成一二）年藤沢北教会牧師に就  
任し現在に至る。

藤森先生には、五月二四日（水）  
に多賀城キャンパス、土樋キャンパ  
ス（夜）の礼拝をご担当いただき  
ました。



# 「決して渴かない水 - 聖霊降臨祭に寄せて -」

日本基督教団 西片町教会牧師



山本 裕司

神様は、人間を構成するものとして「心と体」だけでなく、神と人が触れ合う場「霊」の部分も創造されました(テサロニケ一五：二三)。私たちの「霊」の器に神の息(聖霊)が入り、そこを豊かに満たして下さる時、私たちは「生きる者」(創世記一：七)となるように、最初から創造されていると、人間創造の物語は記されています。

では、もし私たちの「霊」の器が空洞だったらどうなるでしょうか。「土の塵」(創世記一：七)のままだと言ったのです。生きていく気がしないのです。深い渇きを覚えて、居ても立っても居られなくなるのです。どんなに心に沢山知識を蓄えても、どんなに体を鍛えようとも。

渇ける「霊」の目の前に、これ見よが

しに現れるのが、現代の悪霊・依存症なのではないでしょうか。依存症は、ドラッグ、アルコール、ギャンブル、性、カルト、その他多様なものによって引き起こされます。それらはあなたも自らが「聖霊」であるかのように私たちを騙し、「霊」の器に入り込みます。それは、一瞬、宗教的、霊的救済を劇的に与えるようにみえて、しかし、やがて全てを滅ぼしてしまふ悪霊に他なりません。ダルク(薬物依存リハビリセンター)の設立者近藤氏は、こう振り返っています。「覚醒剤は当時の自分にとって神そのものでした。何故なら私は覚醒剤こそ、自分の全ての問題を解決してくれると信じていたのですから。」

覚醒剤は、一時、天にも昇るような解放感を与えますが、あつという間に失速して、直ぐ次が欲しくなる。依存症の特徴である「止められない、とまらない」の無限地獄が始まります。

主イエスが井戸端で出会ったサマリヤの女は「異性依存症」だったのではないのでしょうか。彼女は五人の夫がこれまでいて、今は夫ではない男と同棲しているのです(ヨハネ四：二八)。その女に主は言われました。

「この水を飲む者はだれでもまた渇く」(四：一三)。

それを聴いて彼女は主に願いました。「また、ここにくみに来なくてもいいように」(四：二五)して下さい、と。意識すれば「依存症から救われたい」という、真の神へのすがりつくような祈りがここに見られます。

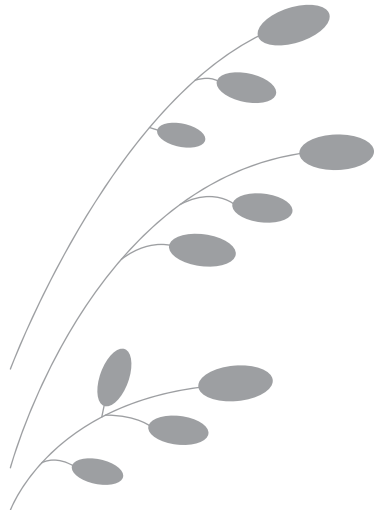
私たちの根源的な渇きと寂しさを真に癒すのは、主イエスが与えて下さる霊なる水以外には存在しません。このペンテコステの季節、聖霊が私たちの「霊」の器に充滿して下さい、私たちの魂が神の愛と恵みに満たされる時、初めて私たちは別の何かを、もう探し回らなくてよくなるのではないのでしょうか。

聖霊でいっぱい(魂)には、他ものが入り込む余地はありません。私たちが根深い寂しさ病から、私たちを解放して下さい、この季節、来て下さった聖霊様なのです。何と嬉しいことでしょう！

◆山本 裕司 牧師

一九五四(昭和二九)年東京都に生まれる。一九七七(昭和五二)年東京農業大学農学部農業工学科卒業。一九八〇(昭和五五)年東京神学大学神学部神学科卒業。一九八二(昭和五七)年東京神学大学大学院博士課程前期神学研究科修了後、日本基督教団屋島教会、大洲教会、日土教会を経て一九九四年西片町教会主任担任教師に就任し現在に至る。その間、草苑保育専門学校においても教鞭を執る。

山本先生には五月二三日(火)に泉キャンパス、一四日(水)に土樋キャンパス(朝)の礼拝をご担当いただきました。



# 各キャンパスのメッセージ

*Izumi*

泉キャンパス  
大学宗教主任

永井 義之



**礼** 拝は聖書の言葉を聞く機会ですが、これはよく毎日の食事にもたとえられます。生きるのに不可欠な食事は、毎日決まった時間によほどのことがない限り食べるといふ行為を繰り返していきます。毎回「馳走」といふわけではなくても、とにかく食べるのです。生きていくのに欠かせないからです。同じように礼拝における「神の言葉の摂取」も日々の欠かせないものとしてわたしたちの心の習慣となるよう心身を整えたいものです。食物の摂取によって体が成長するのは目に見えますが、目に見えない心も精神的に大きく成長するのです。この食べるという行為は子どもの頃からしているわけですが、子どもの食事風景を見てみると半分遊びながら食べていることがよくあります。そのたびに親には叱られていたのですが、しかし、そうして食べるという行為を身につけていって大人となるのです。「神の言葉の摂取」としての礼拝にもいくつかの段階を経て成長する必要があります。

*Taqazyo*

多賀城キャンパス  
キリスト教学科

佐々木 勝彦



**前** 号においてこう述べました。「礼拝」とは、究極の意味に出会う瞬間である」と。  
この「究極の意味」とは何でしょうか。そしてそれは、どこにあるのでしょうか。「究極の意味」とは、「生きる理由(わけ)」と言い換えることもできます。それはあなたの「外」にある、というのが答えです。「そんな馬鹿な」と思うかも知れません。「わたし」のことを一番良く知っているのは「わたし」だからです。ところが、「礼拝」の経験は、これに疑問符を付します。「わたしのことを一番よく知っているのがわたしでない」とすれば、どうなるのでしょうか。「この問いを大切にするとき、もうあなたは立派な哲学者です。」  
「礼拝」の経験は、二千年の間、多くの人に「決定的瞬間」を備えてきました。それは今も変わりありません。「あなた」が「究極の意味」を問う前にすでにその「究極の意味」が「あなた」に問いかけているのです。  
この「なぞなぞ」に挑戦するとき、きつと「新たな発見」があるはず。

*Touchitoui*

土樋キャンパス  
大学宗教主任

北 博



**新** 入生の方々は、そろそろ慣れしてきた頃でしょうか。泉から土樋へとキャンパスを変えて再スタートした三年生諸君は、折り返し点を過ぎた大学生活を悔いのないものとして下さい。授業のある日は出来る限り礼拝に出席して、メリハリのある生活を心がけて下さい。  
ところで、泉と同様土樋でも、キリスト教の先生達が聖書研究会(聖研)を主催しています。曜日や場所、内容等については、チャペルの掲示を見て下さい。基本的にどれも、参加自由です。それから七月二八日から三〇日にかけて、宗教部主催の二泊三日のサマー・カレッジ(サマー・キャンプ)があります。蔵王の自然の中で、牛との触れ合いや散策、ソフトボール大会等を計画中です。これも、東北学院大学の学生であれば、どなたでも参加できます。多くの学生の参加を待っています!

## 編集後記

春の特別礼拝の特集号です。原稿を講師の方々からいただき掲載しました。多くの学生諸君に聖書のことばに触れていただくよい機会です。あいにく聞き漏らした諸君は紙面を通して味わっていただければ幸いです。(NA)

## ◆サマー・カレッジ案内

豊かな自然の中で聖書のメッセージに学びながら学生・教職員相互の交わりを深める宗教部主催による恒例のサマー・カレッジは、「宮城蔵王ロイヤルホテル」を会場に行ないます。今年度も以下の様々なプログラムを用意していますので、皆様ふるってご参加ください。

- 日時 七月二十八日(月)～三〇日(水)
  - 会場 宮城蔵王ロイヤルホテル
  - 主なプログラム 開会礼拝、牧場見学、乳しぼり、主題講演、自然散策、ソフトボール音楽と黙想、閉会礼拝
  - 対象 本学の学生・教職員(定員四〇名)
  - 参加費 八〇〇〇円
  - 締切日 七月二日(土)
  - (定員に達し次第締め切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい)
  - 申し込み先 土樋キャンパス 本館二階宗教科事務課 泉キャンパス 一号館二階庶務係 多賀城キャンパス 一号館二階庶務係
- 参加費を添えてお申し込み下さい。